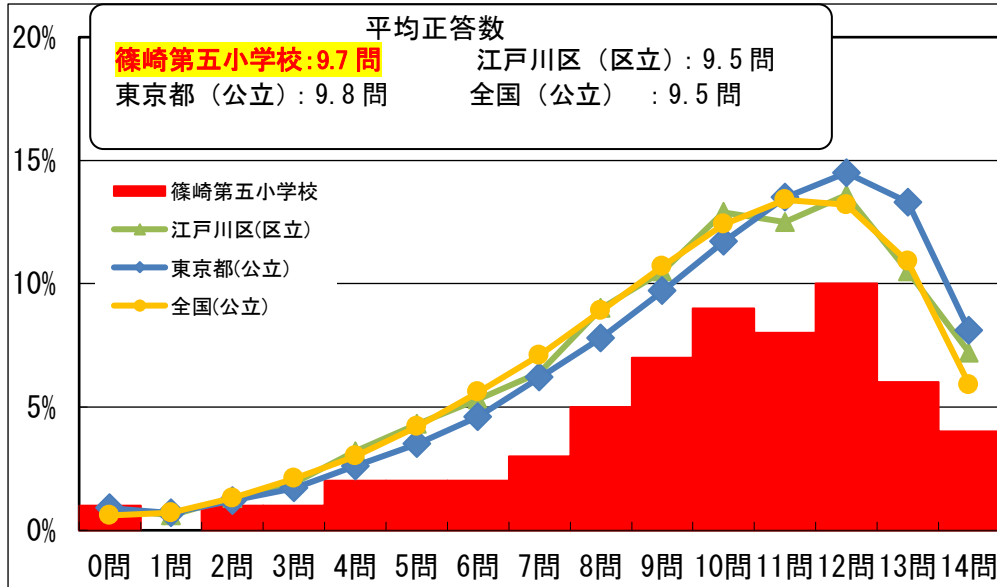


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 篠崎第五小学校

正答数分布



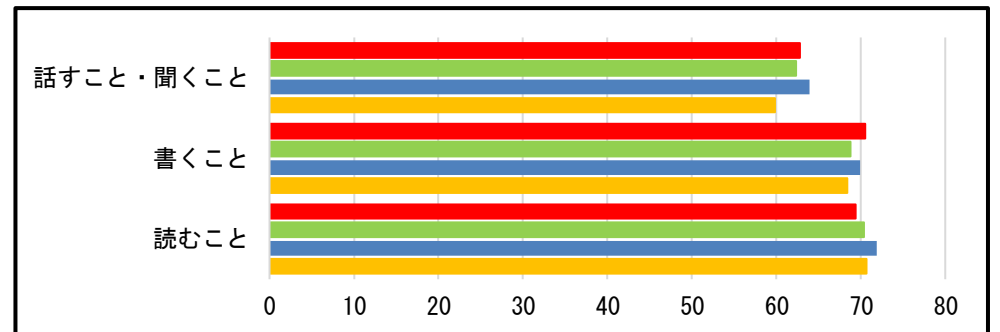
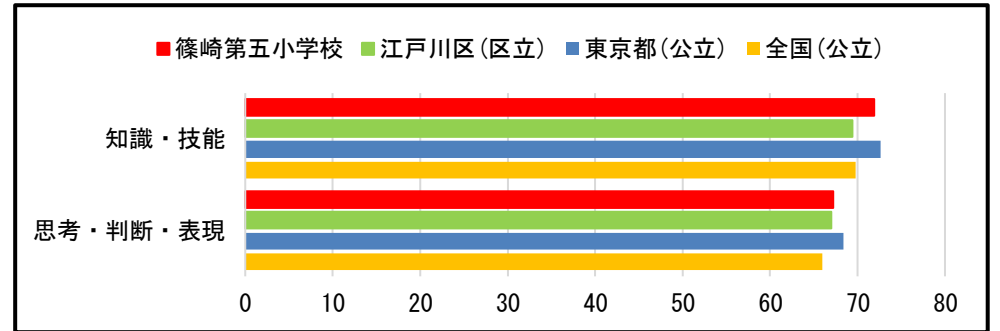
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
篠崎第五小学校	32.8	27.9	19.7	19.6
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

篠崎第五小学校	69%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	-1ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

都との差が-1ポイントであった。学校行事などで書く活動を継続的に行ったことで、自分の考えを表現しまとめる力を付けられたと考えられる。また、このような活動を行い、教員がしっかりと価値付けてきたことで、書くことへの抵抗感を減らせたことは、記述式問題における無回答率の低さにつながったと考えられる。今後も、日頃から自分の考えを書いて表現したり聞いたことをまとめたりするなど、記述して表現する活動を積極的に取り入れたい。「読むこと」は都平均を下回っている。「よむYOMUシート」を活用し、大事な言葉を見付けたり、段落同士の関係性に気を付けて読んだりすることで文章を理解する力を高めていく。